

(6) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

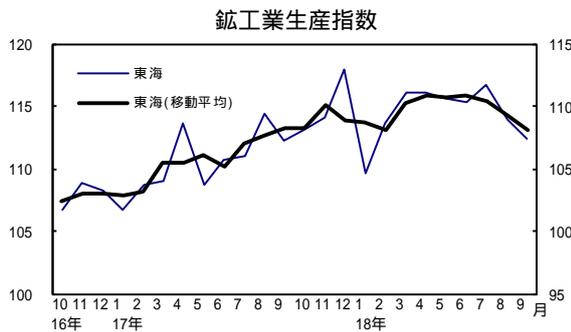
前回からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

7 - 9月期には、「輸送機械」は、台風 21 号の影響等による工場の稼働停止を受け、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、引き続きデータセンターのサーバー向けのメモリ需要が旺盛なことから、増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	35.2	2.0	2.5	0.9	1.9	4.6
電子デバ、電気・情報通信	19.7	3.5	0.7	3.4	11.5	3.4
石油・石炭製品、化学、プラ製品	14.9	3.1	1.5	3.7	1.4	2.7
汎・生産・業務用機械	8.9	1.7	3.8	5.7	2.1	2.4
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	1.6	2.9	0.6	0.1	4.8
鉱工業	100.0	2.2	1.2	1.1	2.3	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。

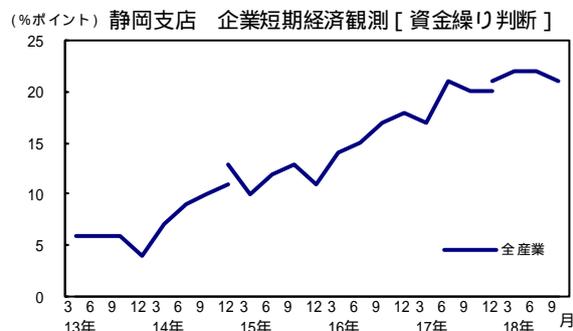
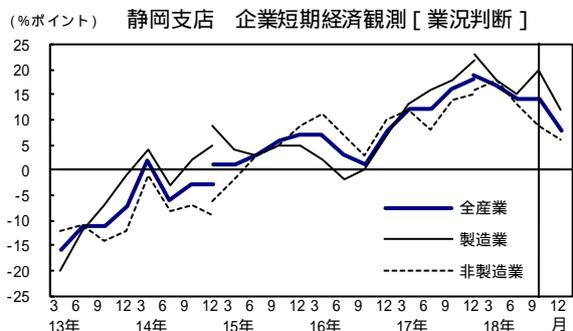
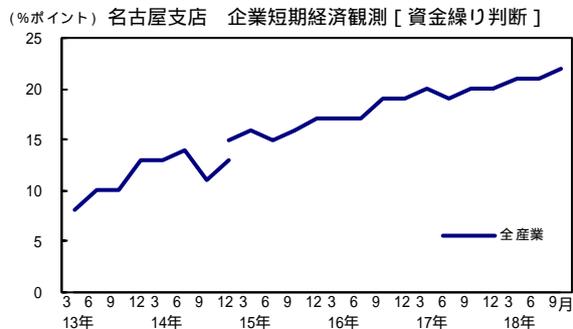
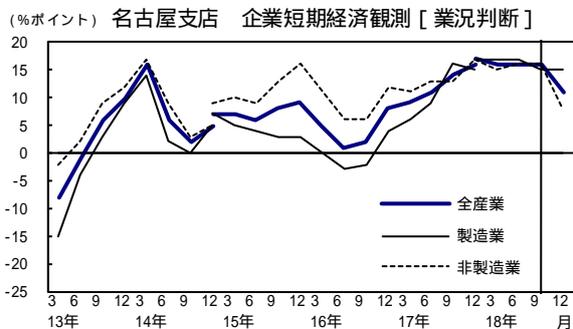
2. 東海の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 東海は内閣府にて算出。

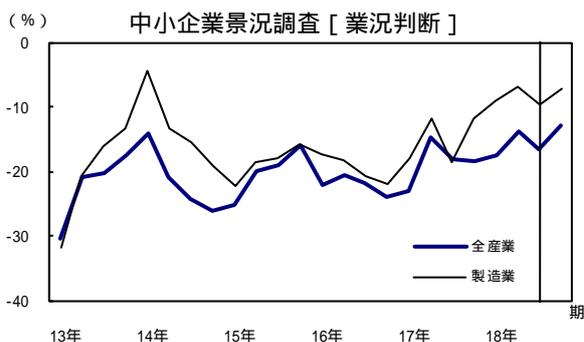
(2) 日銀短観における名古屋支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 静岡支店管内の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
 2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



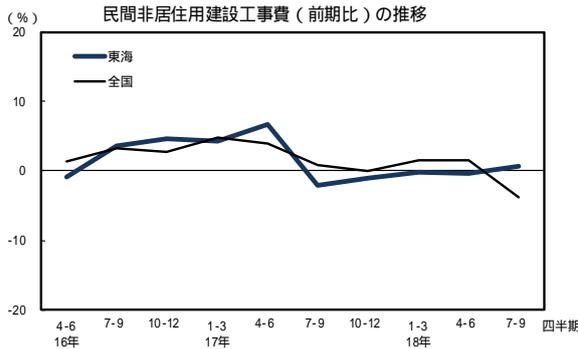
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「株価が上値を突破していかない、為替も円安になりそうでならない状況であり、個人投資家は様子見が多い点は変わらない。また、投資家以外の個人も給与水準が上がっているとの実感はないようで、消費に向かいづらい(金融業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



(備考) 1. 季節調整値。
 2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]
 (前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度計画
全産業		
名古屋支店	3.4	10.3
静岡支店	2.8	12.1 (5.3)
製造業		
名古屋支店	4.2	8.6
静岡支店	3.2	13.5 (1.1)
非製造業		
名古屋支店	1.5	14.9
静岡支店	2.3	10.6 (10.8)

(備考) 1. 2010年度以降は、計画はリース会計対応ベース。
 2. ()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))
 7月は前月比0.7%減、8月は同1.1%増、9月は同0.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額

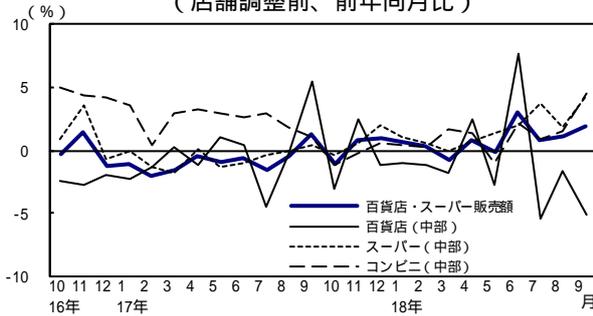
百貨店は、7月は、高額品の動きは継続したものの、天候不順に加え、セール前倒しの影響で衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。8月は、高額品の動きが継続したものの、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。9月は、台風による影響もあって衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。

スーパーは、7-9月期は、衣料品が振るわなかったものの、新規出店効果に加え、飲食料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「記録的な酷暑の影響で今夏はエアコンがよく売れたが、その反動か10月に入ってから大物が売れない。来客数はそれほど落ちていないが、大物を購入する客が少ない(家電量販店)」などの回答がみられた。

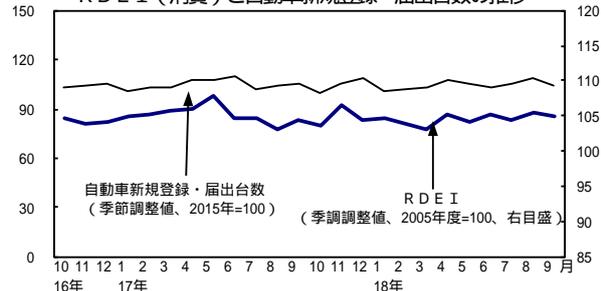
百貨店・スーパー販売額等
 (店舗調整前、前年同月比)



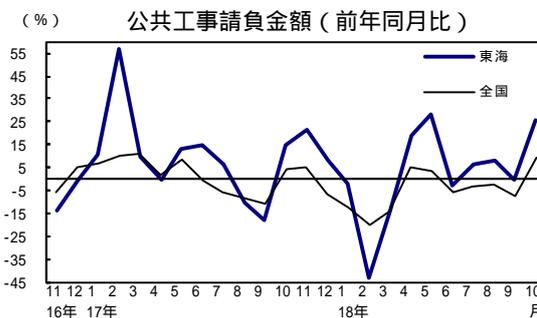
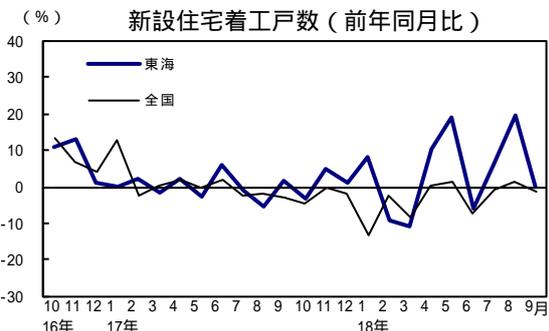
	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	0.7	1.1	0.6
百貨店・スーパー(*2)	1.3	0.8	1.1	2.0
百貨店(*3)	4.2	5.4	1.7	5.1
スーパー(*3)	3.3	3.7	1.8	4.3
コンビニ(*3)	2.2	0.9	1.5	4.5
乗用車(*4)	1.7	4.2	4.2	2.1
(季節調整値)(*4)	0.6	1.7	3.0	3.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

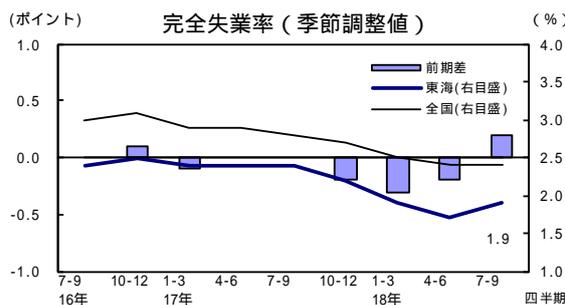
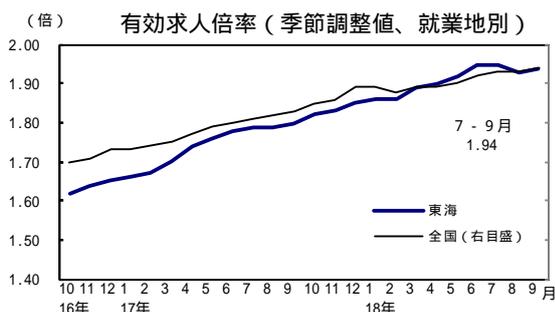


- (2) 住宅建設は前年に比べて増加している。
持家、貸家、分譲いずれも前年を上回ったことから、増加している。
- (3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



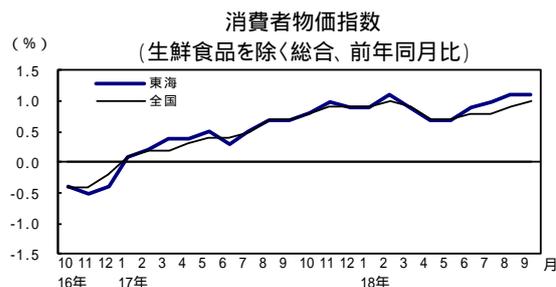
景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [雇用関連 (現状)]

「前年同月と比べ、産業全体の求人数は微増ながら、このうち正社員求人数をみると微減となっている。人手不足感が依然として強まっているが、企業の中途正社員採用に対する姿勢は慎重である (職業安定所)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	271 3.4	273 14.7	278 5.3	248 2.0	85 2.3
負債総額 (前年比)	377 12.6	481 12.4	515 22.8	385 8.1	86 2.8



(6) 東海

